

保育計画成果報告書

法人名等	学校法人らく楽学園
施設名	らく楽寺井保育園
報告者（役職）	大平 恵子（園長）
住所・連絡先	香川県高松市寺井町 1364 番地 25
	☎ 087-885-6002 E-mail terayokids700@rakuraku-group.jp

○タイトル（保育計画）

一人ひとりを大切に。「やってみたい」をみつけよう!!

○主な助成備品

ベビートイプレート・乳児用収納箱付きフリーラック・乳児用オープン整理棚
ままごとテーブル・おとなのドレッサーセット・着せ替え抱っこ人形
街と鉄道遊び・ニューブロック・パネルシアター

1. 保育計画策定の目的

- ・当園には園庭やホールがなく、室内での活動が主となるため、コーナー遊びを充実させることで、活動に静と動のメリハリをつけ、ゆったりと集中して遊びに取り組めるようにしたい。
- ・遊びの中に様々な生活の場面を取り入れ、習慣にしていくことで、自然に生きる力を育めるような環境を整えたい。

女性が仕事をするのがあたりまえになり、出産後の社会復帰も早まる社会情勢もあって、保護者との十分なかかわりが持てず、愛着障がいを持つ子どもの増加が保育現場でも深刻な問題となっている。

当園では小規模保育園ならではのゆったりとした環境のもと、笑顔いっぱいの安心感の中で一人ひとりの子どもに丁寧にかかわり、十分に心を満たしながら健全な情緒を育むお手伝いをし、かつ日々の生活における様々な経験を通してしっかりとした成長の土台を作っていきたいと願っている。

「考える力は生きる力である」という考えのもと、私たちは、子どもたちが自ら考え、自信を持って生きていく力を育む保育を目指し、今回の保育計画を策定した。

2. 具体的な実施内容

(ベビートイプレート)

手足の動きが活発になり、ハイハイやずりばいを楽しんでいる子どもたちが、プレートの中から自分の好きなものを見つけ、「さがす」「さわる」「ひく」「かたち」「うつる」等の様々な経験ができるよう、月齢に合わせてプレートの遊び方を変化させ、手先や指先を十分に動かして遊べるようにした。

(ままごとテーブル・おとなのドレッサーセット・着せ替え抱っこ人形)

ままごとをする際には、ままごとテーブルにドレッサーセットを設置し、着せ替え抱っこ人形でも遊べるようコーナー分けをして遊びを提供した。赤ちゃんの世話や食事作りなど、日常の生活動作に近い環境を体験し、ドレッサーセットでも、大人になった気分を楽しみながら遊びが広がるようにしていった。

(街と鉄道遊び・ニューブロック)

一人ひとりが十分な量を使って、自由な発想で余裕を持った遊び方ができるようにし、子どもたちがイメージを広げながらしっかりと遊び込めるようにした。

(パネルシアター)

行事の出し物や保育の導入に使用し、楽しいお話に触れながら子どもたちが積極的に活動に参加できるようにしていった。

(乳児用収納箱付きフリーラック・乳児用オープン整理棚)

フリーラックや棚に着せ替え抱っこ人形や電車セットを収納し、子どもたちが積極的に片づけを行えるよう配置した。

3. その成果と評価

(ベビートイプレート)

月齢に合わせ、座って遊べるようにしたり、うつ伏せのまま手を伸ばして遊んだりできるようにすることで、子どもたちがそれぞれ気に入った玩具を見つけ、ハイハイで取りに行こうとしたり、手を伸ばして引っ張ろうとしたりする姿が見られ、手先や指先を使うだけではなく、自ら体を動かして目的に向かおうとする意欲が養われた。

プレートの中でも、特に鏡や型はめを好んで遊び、保育者とのやり取りのなかで楽しそうにプレートを使用している。

(ままごとテーブル・おとなのドレッサーセット・着せ替え抱っこ人形)

年齢や男女を問わず抱っこ人形をあやし、ミルクを飲ませたり、抱っこひもで抱っこをしたりして、ごっこ遊びを楽しんでいる。人形を布団に寝かせ、優しくトントンとたたくなど、日頃、家族や保育者にしてもらっていることを思い出し、模倣しながら同じように人形にもしてあげようとする姿が見られる。また、これらの模倣遊びがきっかけとなり、1、2歳児では、周りの友だちや、自分よりも小さな友だちの世話をしようとする姿も頻繁に見られるようになった。

ドレッサーを使うときには子ども同士で会話をしながら遊ぶことが増え、コミュニケーションが広がる良いきっかけとなるなど、遊びが広がるにつれ、会話の広がりや相手を思いやる気持ちが育っていった。

(街と鉄道遊び・ニューブロック)

十分な量のブロックや線路を用意することで、それぞれが思うままに大きな作品を作ることができ、満足そうな様子が見られる。子どもたちの間で取り合いになりがちな電車も、進んで貸してあげる姿が見られ、みんなが電車をつなげて遊ぶ楽しさを味わうことができている。

線路をつなげる時にも、保育室全体を使い、2歳児が1歳児にアドバイスをしたり、手助けをしたりしながら互いに協力し合うようになり、一つの大きな作品を友だちと協力して作るなど、十分な量の玩具を提供することが、協調性や社会性を養う遊びにつながっている。

(パネルシアター)

誕生会の出し物や、行事、保育の導入などに積極的に使用し、絵本や紙芝居とは違う楽しさを味わうことができた。パネルが大きく、子どもたちの興味や状態によって自由にアレンジも加えられるため、子どもたちの関心を引きやすく、集中してこれからの活動に取り組むよいきっかけとなっている。

(乳児用収納箱付きフリーラック・乳児用オープン整理棚)

フリーラックや棚の決められた場所に玩具を収納することで、子どもたちが玩具の場所を覚え、迷わず自分の遊びたい玩具を選んで遊ぶことができるようになった。場所が決まっているため片づけもしやすく、遊びから片づけまでを一連の流れとして習慣づけることで片づけに意欲的になり、整理整頓のルールも身につけてきている。

どちらも乳児用であるため、高さや安全性についても申し分なく、安心して子どもたちの活動を見守ることができる。



4. 今後の課題と展望

友だちと一緒に遊ぶようになった反面、誰かが好きな玩具で遊び始めると、そちらが気になり、同じ玩具で遊ぼうとして、遊びがワンパターンになりがちであった。子ども同士では組み立てられるものにも限界があるため、保育者が一緒にかかわりながら遊ぶことで、子どもたちの発想力や表現力を刺激し、形にする手助けをしながら、より遊びを広げ、いろいろな経験ができるようにしたい。

ままごとでは、飽きてしまうと片づけをせずに次の遊びに移ったり、ドレッサーセットの道具を噛んで歯形をつけてしまったりしたため、口に入れないことや、大切に扱うことを知らせ、遊びのルールやマナーを身につけるとともに、誤嚥などの事故につながらないように配慮していく必要を感じた。今後はより安全にも留意しながら、着せ替え人形を通して衣服の着脱に興味を持ったり、ままごと遊びがより日頃の生活習慣につながったりするよう工夫していければと思う。

今回の助成で十分な量の玩具や、遊びやすい環境を整えることができ、子どもたちが自ら考え、仲良く、楽しんで遊びを広げていくことができた。これらの成果をもとに、保育者も子どもの発達や興味・関心に合った遊びを提供し、しっかりと関わりながら、温かい信頼関係の中でともに成長し、保育を楽しむ心を大切にしていきたい。

以上